
青春爆心録『俺の学校戦争』

鈴木成海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春爆心録『俺の学校戦争』

【Nコード】

N74740

【作者名】

鈴木成海

【あらすじ】

主人公が青春を取り戻していくヤンキーのヤンキーによるヤンキーのコメディみたいな感じの話。

序章（前書き）

私が書く二作目というか一作目の一章を考えてる時思いついたので投稿してみました。まあこっちを中心にやっつけていこうと思います。どうかヨロシク^^

序章

俺は入学早々喧嘩に明け暮れていた。

「俺の青春はこんな感じで終わってしまうのか!？」

そんなことを思いながら俺はまた喧嘩をしていた。

そしてまた俺は喧嘩に勝った。

「またやっちまった・・・」

俺の手は拳は皮が剥け血だらけだった。

「まあいつものことか」と思ったが、何か胸騒ぎがした。

そして帰ろうとしたとき!

目の前にはこの世のものとは思えない美しい女子高生が立っていたのであった・・・

俺は、その子に一目ぼれしたのである。

序章（後書き）

ぜひこの小説は続けたいので続きも読んでください。

第一章 美少女

前

回のあらすじ

俺は喧嘩に明け暮れていた。喧嘩が終わると目の前には美少女

美少女が話しかけてきた

「あんた強いの？」

俺は思わず

「えっ！？」と言ってしまった。

美少女は

「だからあんたは強いの？」と怒鳴り散らす。

「ふっお前よりは強いんじゃないかな？」と鼻で笑い言い返すと美少女はいきなり蹴りかかってきた。

俺はそれに驚き反応がでず蹴りをくらってしまった。

「んあ・・・うつ・・・」

そして俺は気を失ってしまった。

目が覚めるとそこは見たこともない部屋だった

起き上がり帰ろうとした時あの美少女が入ってきたのだった。

「お・お前は！！」と俺がいうと

「ああさつきはごめんね」やわらかい口調でそう言った。

「えっ！？」と思うず言ってしまった。

俺はいろいろ考えた。

「まさかあいつは双子なのか？」

「それとも二重人格？」

「ああ！！分けわかんねえ　　！！」

すると

「ああ私、萩本優子（はぎもとゆうこ）っていの」

「えっと・・・俺は杉浦敦（すぎうらあつし）」

美少女はニッコリ笑い

「ヨロシクね」と言ってきた。

そして俺は

「ヨ・ヨロシク・・・」と言った。

第一章(2) まさかの・・・

「ピピピピー・・・」

「ああうるっせなあ！」

俺はうるさい目覚まし音で起きた。

時計をみるともう七時五十分だった。

「やべえ！！」

だがもう気付いた時には遅く俺は廊下に立たされていた。

そして俺はそこで携帯をやるうとしたが忘れていた。

「クソ！」思わず口に出した。

だがほかのクラスにも立たされているやつがいた。

それは俺の親友と言えようシュンこと萩本駿（はぎもとしゅん）である。

シュンは、幼稚園からのなかだがあいつは昔から陽気で正直言って天然である。

あいつが俺に気付いた

「あゝつし」と呼んできた。

それは教室の中の先生はもちろん気づいて俺までも怒られた。

俺とシュンは放課後残らされることになった。

「はぁお前のせいだぞシュン」

「まあいいじゃんあつしこれもなんかの縁と思ってさあ」

「そりや腐れ縁だろ」

「そっかゝあははは」

まあいつもこんな感じでやっているわけである。

「てかさぁもう帰らねえ？」

「いいねえそうしよう！」

「じゃあ今からゲーセンでも行くか」

「だね」

そして俺たちは学校を抜け出しゲーセンへ行った。

「そういえばさあ俺この間」

「ピピピ・・・」タイミング悪く携帯がなった。

「悪い」俺は携帯に出た。

「ひゝさしゝぶりゝ」そこには聞き覚えのある声が聞こえた

「えっ!？」頭が混乱した

「私だよ優子だよ」

「なんで番号知ってんだよ!」と怒鳴った。

「まあまあ落ち着いてゝ」と言っている。

「だからなんでって聞いてんだよ!」

「ああそうだったね弟に聞いたんだゝ」と答える

俺はさらに混乱した。

「弟?」と聞いた

「うん今隣にいない?」

隣にはシュンがいるけど・・・

シュンの名前は萩原駿あいつの名前は萩原優子・・・

「まさか弟ってシュン?」

「やっぱ隣にいる?アッハッハ」と笑う

「変わってくんない?」

「シュンお前の姉から」とシュンに言う

「あつ姉ちゃん?」と姉と話し出したシュン

俺はそんな中頭が混乱した・・・

なぜなら初恋の相手が親友の姉なのだから

「なぜだあゝゝゝ!」俺は心の中で叫んだ

第2章 疑問

前回までのあらすじ

シュンの姉はまさかのおれの初恋の相手

！？

俺は正直戸惑いが隠せなかった。

シュンの姉だったとは思ひもしなかった

まあそんなことは考えずに俺は今日はもう寝ようと思った。

だが俺のなかにはまだ疑問が残っていた。

それはあの蹴りをいれた姿と家でみた姿それに電話で聞いた印象が三つとも違うのだった。

そんな疑問を持ちながら寝た。

次の日俺は、風邪をひいていた

体温計で熱を計ると38・5度もあったのだ。

「ああ学校に電話するのはだるいなあ」そんなことを思った。

まあ親が電話してくれるだろうなどと思い俺はまた寝た。

何時間がたつたら俺は目が覚めると「ピンポン！」と音が聞こえた。

俺はだめんどくさがって出ようとしなかった。

だが何度も押してくるのでイラついて出た

「はい！！なんすか？」と怒鳴りながら出た

「よう！俺だよシュン」シュンであった

「私もいるよ」と姉の声が聞こえた。

逆に出る気がなくなつた。

なぜだかあいつの声を聞くと無性にイラつく

まさかこれは恋じゃなくライバルししていたのかと思った
少し俺はこの気持ち（恋）ではなく（ライバル）という気持ちに
変わったことを喜んだ。

そして中にあいつらが入ってきた。

「よっす！」シュンがいうと

俺はいきなりこんなことを言ってしまった。

「おい、シュンの姉俺とタイマンはりやがれ！」と言ったのだ
シュンの姉は待ってたかのようにこう答えた

「あたしに勝てるかしら？」

「まあ蹴り一発でKOされちゃうやつに負けるはずないけど」
その言葉に俺は無性に腹が立った

「いいわ受けてやるわよ」とシュンの姉が答えた。

「じゃあちょうど一か月後の七時に海上公園で」

「わかったわ！」とシュンの姉は答えた。

シュンは何がなんだかわかってなかった様子だ
その後俺は事情を話し納得してくれた。

だが俺はこのあと起こる悲劇を分かっていなかった。

次回

優子が事故に会い！？

シュンと俺は異次元世界に飛ばされる！？

そして新たな章へ・・・！！

異次元世界編

俺は雨の中病院に走っていた。
優子が交通事故にあったのだ
そして俺は病院に着いた。

すぐさま病室に行くと・・・
もう遅かった。

「なんでだよ!!」

「敦落ちつけよ!!」 シュンがとめた

「いやゝもう喧嘩できないんだってハハハハ」

「なんでなんだよ俺と喧嘩できねえじゃねえかよ!!」

「シュン俺はくやしだよ」

「代わりといっちゃなんだけど」

と優子はポケットから何かをだし敦に渡した。

「なんだよこれ？」

泣きながら言う敦

「ああそれなんか車運転してた人にもらった物」

と笑いながら言う優子

「こんなものいらねえー!!」

と床に投げ捨てた時それは光った。

そして俺は光に包まれた。

目が覚めると右隣にはシュンがいた

そして左隣りにはとてつもなくデカイ猪がいた。

「えっ!？」

シュンが目を覚めると。

「あれゝここどこだよ?」

「おいシュン！」

「なんだよ敦」

「逃げるぞ」

「えっ！？なんて？」

「逃げるぞー！！！」

大きな声を出したとたん猪が目を覚まし今にも突進してきそうだった。

「敦それ何！？意味わかんねえんだけど」

シュンもさすがに混乱したようだった。

だが俺が今言えることは・・・

「逃げるぞー！！！！！！！！！」

それと同時に猪が追いかけてきた。

「うおお~~~~~！！！！！」

二人は全力で逃げなんとか巻いた・・・

俺たちはとてつもなく疲れていた

「ハアハアこれからハアどうする・・・」

敦が言う

「あそこにハア街があるぜ」

シュンがそいうと

「じゃああそこで聞きハア聞き込みしようぜ」

「だな」

俺たちはあの街で聞き込みをすることにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7474o/>

青春爆心録『俺の学校戦争』

2010年11月8日13時18分発行